

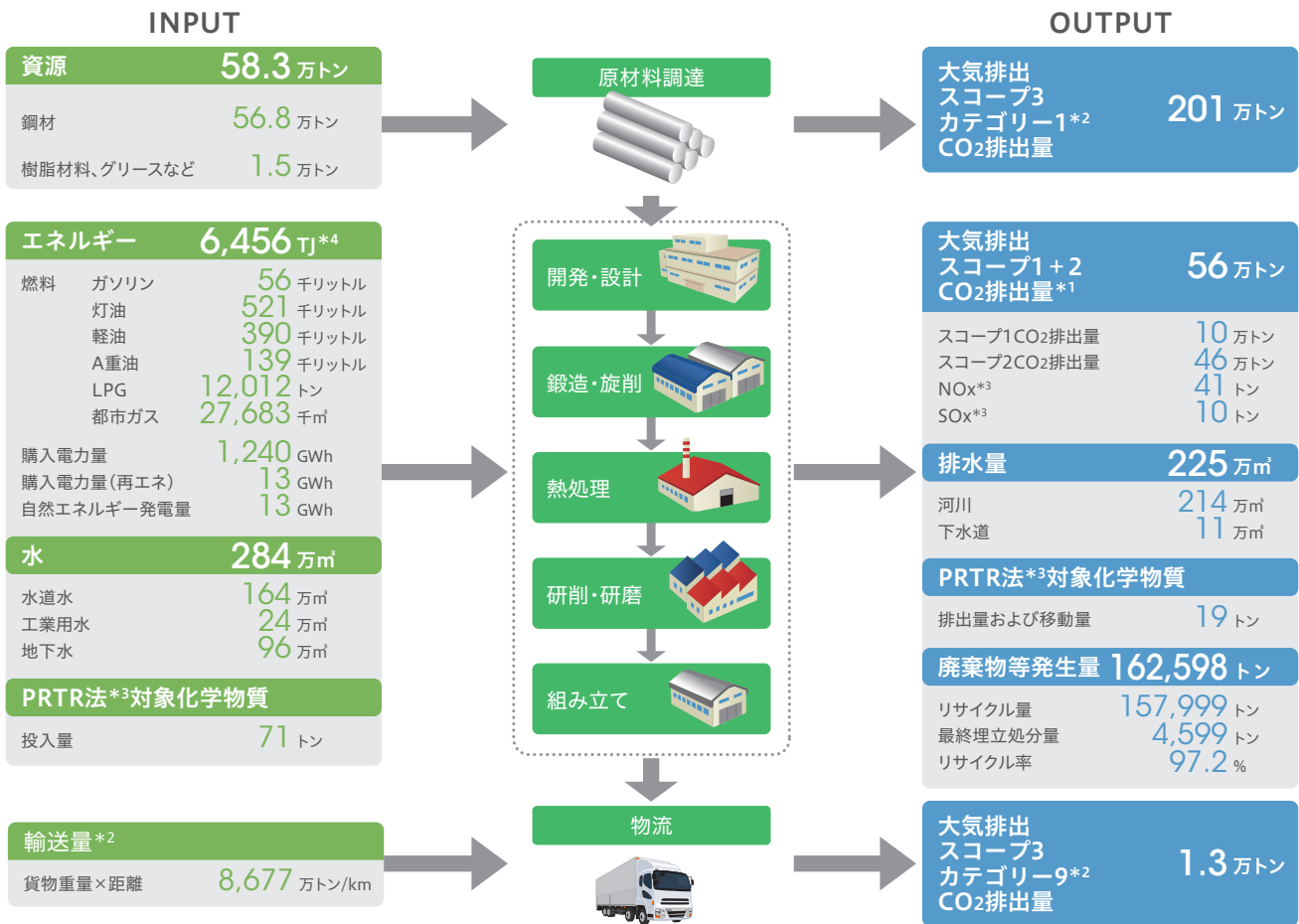
マテリアリティ 資源循環・汚染防止

当社グループは、資源の持続的利用に配慮した3R(リデュース、リユース、リサイクル)を徹底し、原材料や水などの投入資源および廃棄物等の削減などを総合的に推進するための枠組みを整備しています。また、商品および製造工程で用いる化学物質の管理を徹底するとともに、PRTR法\*の対象化学物質を含有する原材料は、積極的に代替品への転換を進めています。廃棄物発生量の削減による高リサイクル率の維持やPRTR法対象の化学物質取扱量については年度目標を設定し、達成に向けた取り組みを推進しています。

\*特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律

マテリアルバランス

■ 事業活動のマテリアルバランス(2023年3月期)



\*1 国内事業所は、電力事業者別排出係数(環境省・経済産業省)、海外事業所は、Emission Factors 2022 (IEA) 出典の排出係数にて算出

\*2 輸送量、スコープ3CO2排出量は国内の実績値

\*3 NOx、SOx、PRTR法対象化学物質は国内の実績値

\*4 電力のエネルギーは物理量3.6MJ/kWh、燃料のエネルギーは「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算出のための排出原単位データベース(Ver.3.3)」(環境省)に記載の排出係数を使用して算出

「資源循環・汚染防止」の詳細は、Webサイトをご参照ください。  
<https://www.ntn.co.jp/japan/csr/environment/chemical.html>

## 生物多様性の保全

当社グループは、地域住民やNPO法人(特定非営利活動法人)と連携し、適切な間伐や植林などの持続可能な森林管理によって、森林生態系を保全するとともに、各事業所の周辺地域の絶滅危惧種の保護および自然公園の整備などの生物多様性保全の活動に取り組んでいます。コロナ禍以降、参加人数の調整や感染予防対策を徹底することで、活動が形骸化しないよう工夫をしながら進めています。

## 地域への環境貢献

当社グループは、地域への環境貢献の一環として、事業所周辺の道路や河川・海岸、公園などの清掃活動、除草、植樹などさまざまな活動を通じて、地域社会との相互協力のもと、環境保護活動を推進しています。今後も活動を通じて、周辺住民など利害関係者との連携を強化するとともに、良好な関係を構築できるよう一層の努力をしていきます。

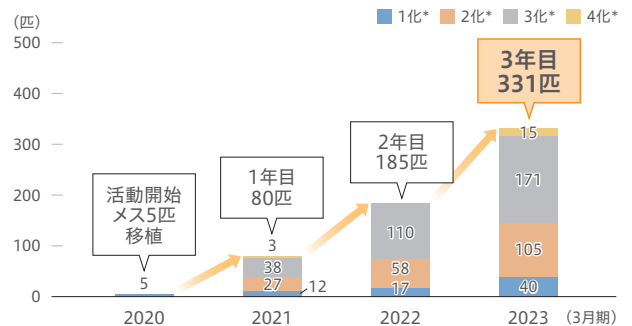


中部台運動公園での植樹風景（三雲製作所）

## 絶滅危惧種ミヤマシジミ(蝶)の保護活動

長野製作所(長野県上伊那郡)では、2019年に長野県との生物多様性パートナーシップ協定を締結し、事業所内に絶滅危惧種であるミヤマシジミの保護区を設置して保護活動を継続しています。保護区設置開始から、シヤクトリムシやアブラムシが大量に発生し、幼虫の餌となるコマツナギの食草不足が確認されたことやアシナガバチやカマキリなどの天敵の発生により、幼虫の捕食が確認されるなどさまざまな課題に直面しましたが、コマツナギを植え直し、都度、天敵の駆除などの対策を実施したことなどにより、順調に生息数が増加しています。2022年8月には、地元の高等学校から就業体験生を受け入れ、生徒の皆さまに生物多様性の大切さを理解していただく特別授業を企画し、ミヤマシジミの保護活動に参加いただきました。今後の活動としては、保護活動により順調に生息数が増加していることから、外部の見学者の受け入れを進めるとともに、事業所内の保護区を増やし、保護活動をさらに活発にして生息数を増加させていきます。

### ■ ミヤマシジミ保護区 成虫発生数(長野製作所)



\*1年間の世代回数によって、それぞれ1、2、3、4化性があり、3化性以上のは多化性という。



パーベナの花に止まっているオスの3化成虫

「環境保護」に関するそのほかの取り組みは、Webサイトをご参照ください。  
<https://www.ntn.co.jp/japan/csr/environment/protection.html>